



共有する

端末を使うと、すぐに情報を共有したり、わかりやすく発表したりすることができます。

ここでは、上手な情報の共有の仕方や発表へのフィードバックの仕方、グループチャットでのトラブルの対応などについて学びます。

最初にチェックしてみよう

- 私は、情報の性質によって情報共有の仕方を工夫することができると思う
- 私は、発表を客観的に評価することができると思う
- 私は、「批判」と「非難」がどのように違うかを知っていると思う
- 私は、SNSで情報を発信した時に、どんな反応があるかを想像することができると思う
- 私は、グループチャットでの悪口を止めることができると思う
- 私は、グループチャットに間違えた内容を投稿した時に、適切に対応することができると思う

→ 情報を共有する際に意識したいのが、ストック情報とフロー情報です。

ストック情報とは、後から何度も活用する「蓄積して活用する情報」のことで、フロー情報とは、その場限りで共有する「瞬間的に活用する情報」のことで。

次の情報をストック情報とフロー情報に分けてみましょう。

1

これまで調べた
資料

2

先程、先生に言
われた発表場所
の変更に関する
情報

3

パッと思いつい
たアイデア

4

調査の参考とな
るURL

5

今日の部活の時
間の変更を伝え
る情報

ストック情報

A

B

フロー情報

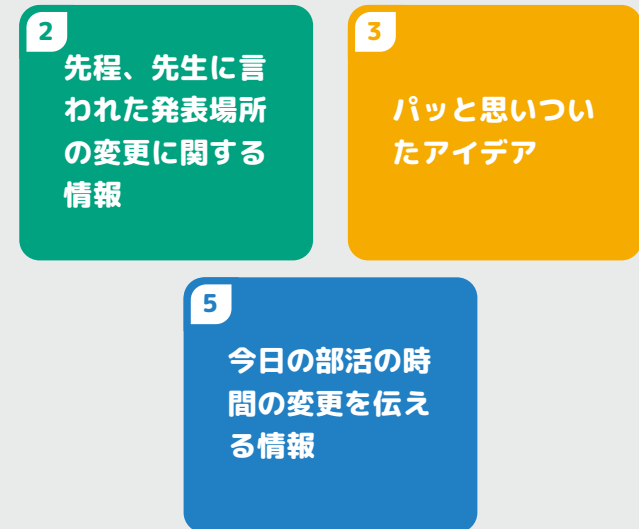


正解

ストック情報 **A**



B フロー情報



 スキルのポイント

情報を共有する場合、すぐに知らせたいというフロー情報は、チャットなどを使うとすぐに共有することができます。しかし、チャットだけでいろいろな情報をやりとりしてしまうと、情報量が多くなり、後から大切な情報を探すということになりがちです。

そこで、これまで調べた資料や参考となるURLなどのストック情報（蓄積して活用する情報）は、チャットとは別の場所に保存しておく、あとで見返したい時に便利です。（例えば、LINEの場合は、「ノート」という機能を使うと便利です）

次の情報は、ストック情報とフロー情報のどちらでしょうか。

1
今、起きた
出来事について
のニュース

2
避難情報の
マニュアル

他の人の意見を見てみましょう。



Aさん

「今、起きた出来事についてのニュース」はフロー情報だと思う。今だけしか使えないし、すぐに古くなるからね。



Cさん

たしかに。逆に「避難情報のマニュアル」は何回も使えるから、ストック情報だね。



Dさん

でも、ニュースも内容によっては後で使うこともあるかも？でも基本は一時的な情報ってことか。

あなたのクラスでは、「街のよさ」について調べたことを発表することになりました。
各グループが5分で発表を行います。あなたはどのように評価を行うか、評価項目を3つ考えてみましょう。

評価項目			
1班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
2班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
3班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
4班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
5班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
6班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
7班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C
8班	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C

A:とてもよい

B:ふつう

C:いまいち

評価項目のヒント

- ・ 声の大きさ
- ・ 資料の見やすさ
- ・ 発表時間
- ・ わかりやすさ
- ・ 新規性（おろどきがあったか）
- ・ 有益性（役にたつか）
- ・ 根拠の明確さ

他の人の意見を見てみましょう。



Aさん

私は「声の大きさ」「内容のわかりやすさ」「調べたことの新しさ」の3つにしたよ。どれも発表で大事なことだと思って！



Bさん

私は「資料の見やすさ」と「発表時間のちょうどよさ」、あと「聞いていておもしろいか」にしたよ。聞き手の気持ちを考えてみたの。



Dさん

私は「役に立つかどうか」と「話す速さがちょうどいいか」、それと「根拠がある説明かどうか」で評価することにしたよ。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。

評価項目			
1班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
2班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
3班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
4班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
5班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
6班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
7班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
8班	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C

友達と共有してみよう

★ スキルのポイント

客観的に評価を行うためには、あらかじめ、どのような項目で評価するかを考えておく必要があります。

例えば、発表の内容（調べた内容）をどのように評価するか、発表の方法（調べたことをどう伝えているか）をどのように評価するかについて、いくつかの項目を立てて評価を行うと、各グループを客観的に評価することができます。



→ やってみよう

クラスの友達の発表を聞いたり、ネット上で誰かの意見を見たりした際に、自分の意見をコメントすることがあります。しかし、そのコメントが、「批判」となるのか、「非難」となるのかには違いがあります。批判と非難の違いを考えながら、次のコメントを批判と非難に分けてみましょう。

1

発表がつまらなかった

2

声が小さいので、もっと大きな声で発表してほしい

3

提案内容と先行事例との差がわかりにくかった

4

もっとよく考えた方がよいと思う

5

よくない発表だった

批判

A

B

非難

他の人の意見を見てみましょう。



Cさん

「発表がつまらなかった」や「よくない発表だった」は非難だと思う。理由もアドバイスもないから、相手はただイヤな気持ちになるだけだよね。



Bさん

「声が小さいので大きな声で発表してほしい」とか「事例とのつながりがわかりにくい」は、具体的にどう直せばいいか言ってるから批判になると思う。

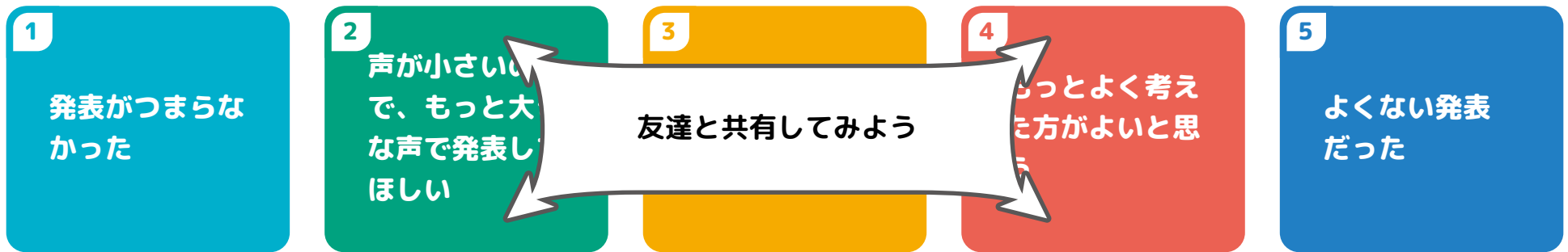


Dさん

「もっとよく考えた方がよいと思う」ってちょっとあいまいだけど、悪くしようとしてる感じじゃないから、ギリギリ批判かなって思った。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。





★ スキルのポイント

批判とは「物事の良し悪しをよく調べたり考えたりして判定すること」であり、そこには問題点の指摘や改善へのアドバイスなども含まれます。

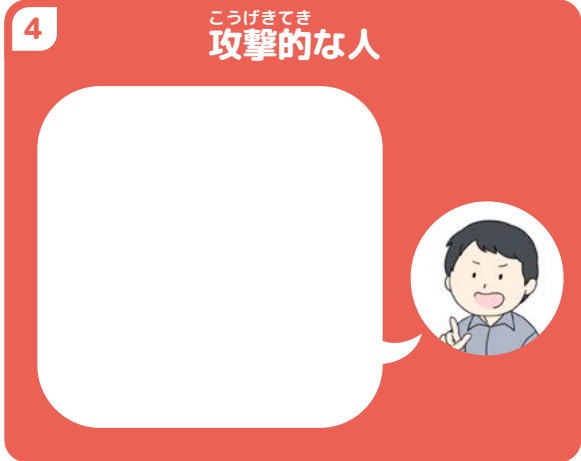
一方、非難とは「悪い点を責め立てること」であり、批判に比べると改善につなげにくくなります。

もちろん、誰かの発表や意見に対して自由に自分の意見を言うことは、「表現の自由」として保障されています。しかし、その意見が単なる非難に終わらずに、きちんと批判することで、批判された側も次の改善につなげることができます。



→ やってみよう

あなたがSNSで情報を発信したとき、見た人からどのようなコメントがあるか、見た人の反応を想像してみましょう。
 あなたのことを知らない人が、あなたのアイスに関する投稿を見たときに、どのようなコメントをする可能性があるでしょうか。



他の人の意見を見てみましょう。



Aさん

共感してくれる人は、「わかる！ 毎回買っちゃうよね！」とか言ってくれそう！



Dさん

逆に「チョコメントまずすぎ」とか言う人は、攻撃的な人のパターンだな…。

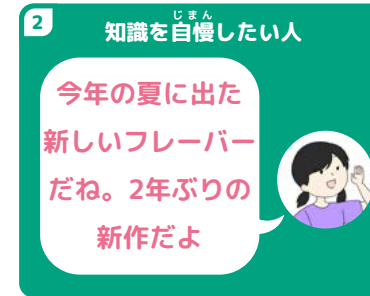
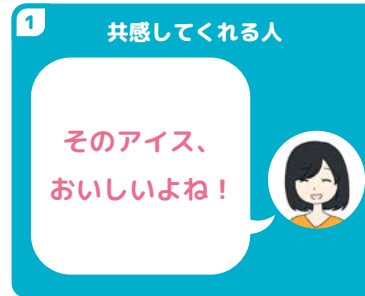


Bさん

たしかに！ 知識を自慢したい人は「メントには〇〇っていう成分が含まれているんだよ」って言いそう。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。

解答例



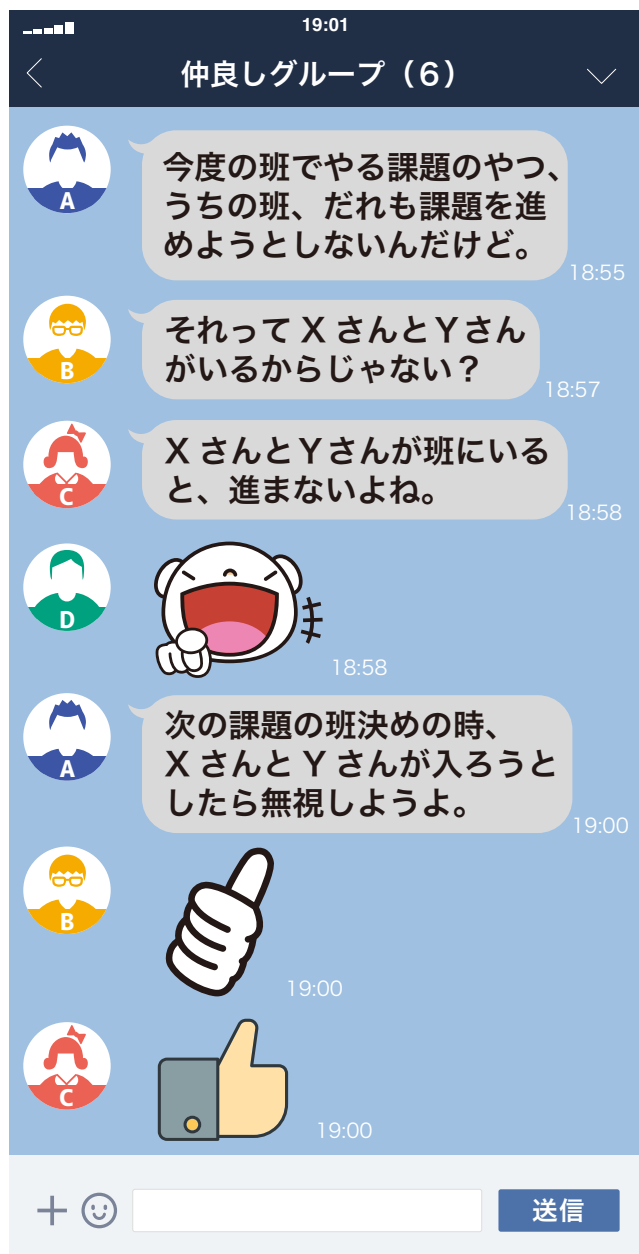
★ スキルのポイント

とうこう 投稿を見た人全員が「いいね!」と言ってくれると思って投稿したら、予想とはまったく違った反応がある場合もあります。

もしかしたら、「そのチョコミントをおいしいっていうなんて、味覚がおかしい笑」と こうげきてき 攻撃的なコメントがあるかもしれません。

もし、こうげきてき 攻撃的なことを書かれたらどうすればよいか、あらかじめ対応を考えてみましょう。





あなたが入っているクラスの仲良しグループのチャットで、あなたが仲の良いXさんとYさんに関する悪口が書かれています。
あなたは、どのように対応しますか。



他の人の意見を見てみましょう。



Aさん

私だったら、「そんなふうに言うのはよくないと思うよ」って言うかな。



Cさん

私だったら、「本人とちゃんと話した方がいいよ」っていうかな。



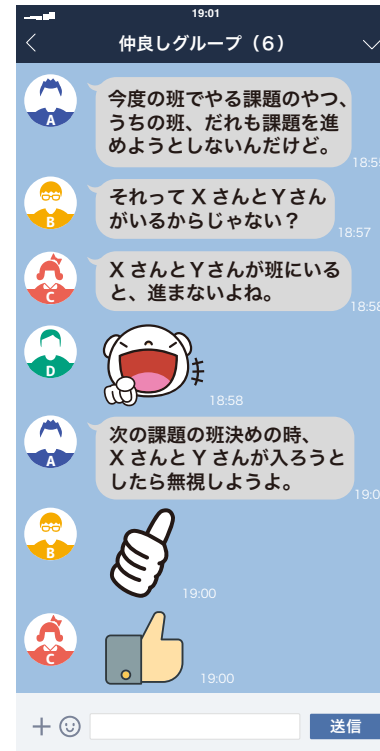
Bさん

私だったら、先生に相談すると思うな。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。



友達と共有してみよう



★ スキルのポイント

自分が悪口を言わないようにしていても、グループチャットで友達が悪口を言い始めると、それに同調を求められる場合もあります。「関わらない」「無視をする」という方法もありますが、チャットの場合、「無視をする」（反論しない）ことが「同意」と捉えられる可能性があるので注意が必要です。

もちろん、そのチャットだけですべてを解決する必要はありません。まだコメントを書いていない仲良しグループの友達、それ以外の友達、学校の先生、保護者の方などに関わりながら、チャットだけで対応を考えるのではなく、対面を含めてどのように対応するかを考えてみましょう。

→ やってみよう

あなたは、チャットを使っていて、本当は家族に送るはずの釣りの写真を、クラスのグループチャットに送ってしまいました。あわてて送信を取り消し、写真を削除しましたが、みんなは見ているはずですよ。その時、あなたはどのように対応してほしいか、1つ選んでみましょう。

1 全員がなにも反応しないでほしい

2 グループチャットでフォローしてほしい

3 個別のチャットでフォローしてほしい

4 実際に会ったときにフォローしてほしい



他の人の意見を見てみましょう。



Aさん

うっかり釣りの写真を送っちゃったら、こういうときは誰も触れずにスルーしてほしいな。



Bさん

私は、個別で「気にしないでいいよ」って声かけると思う。



Dさん

私はグループで「ナイス魚！」って笑いに変わるかも。空気がやわらぐしね。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。

1
全員がなにも
反応しないでほしい

2
グループチャットで
フォローしてほしい

友達と共有してみよう

3
個別のチャットで
フォローしてほしい

実際に会ったときに
フォローしてほしい

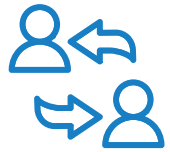


★ スキルのポイント

気をつけていても、グループチャットに間違っメッセージや写真を送ってしまうことはあるかもしれません。

「送信を取り消す」ことなどもできますが、目に触れてしまうことをすべて防ぐことは難しいでしょう。そのとき、どのようにフォローしてほしいかは人それぞれです。どのような対応を希望するか、友達と共有してみましよう。

また、間違っ送られたメッセージや写真は保存することなく、削除するようにしましよう。



共有する

まとめ

よき使い手になるために

情報を共有する場合には、相手のことを意識する必要があります。

ストック情報（蓄積して活用する情報）とフロー情報（瞬間的に活用する情報）を意識して相手がわかりやすいように情報の共有を工夫したり、相手が改善できるようにフィードバックを工夫したりしてみましょう。

チェックしてみよう

- 私は、情報の性質によって情報共有の仕方を工夫することができる
- 私は、発表を客観的に評価することができる
- 私は、「批判」と「非難」がどのように違うかを説明することができる
- 私は、SNSで情報を発信した時に、どんな反応があるかを想像することができる
- 私は、グループチャットでの悪口を止めることができる
- 私は、グループチャットに間違えた内容が投稿された時に、適切に対応することができる



端末を使うことにより、文字を目で見る、音声を耳で聞くことで情報を相手と共有できます。

これからの社会では、それを含めた五感（目で見る・耳で聞く・口で味わう・鼻でかぐ・手で触る）を相手と共有することができるかもしれません。

調べてみよう

五感のうち「口で味わう・鼻でかぐ・手で触る」を共有するサービスにはどのようなモノがあるだろうか？

話し合ってみよう

五感を共有できるようになると、どのような社会問題を解決できる可能性があるだろうか？



つくる

端末を使うと、わかりやすい発表スライドをつくることができます。

しかし、その際に勝手に他者の著作物を使うことがないように気をつけたり、自分の著作物を勝手に使われることがないように気をつけたりする必要があります。

ここでは、上手にデザインするための方法や、他者や自分の著作物の権利について学びます。

最初にチェックしてみよう

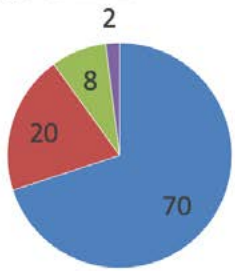
- 私は、上手に発表スライドをデザインすることができると思う
- 私は、発表スライドのタイトルを上手につけることができると思う
- 私は、著作権が何のためにあるのかを知っていると思う
- 私は、著作権を侵害してしまうことがあるかもしれないと思う
- 私は、知的財産権の「著作権」と「産業財産権」について知っていると思う
- 私は、画像生成AIを使う時に、どのようなことに気をつければよいかかわかると思う

よりよい発表資料をつくるためには、内容はもちろん、デザインも工夫する必要があります。
 次の発表スライドのデザインの問題点を考え、よりよい発表スライドにするための工夫を考えてみましょう。

〇〇市をもっとよりよくするために

〇〇市には、たくさんの自然があり、食べ物もおいしく、人が温かいという良さがあります。

改善を望むことの調査(100人)



改善項目	割合
交通の不便さ	70
観光地を増やす	20
名物をつくる	8
特にない	2

調査では、交通の不便さの指摘が多いという結果になりました。

〇〇市をよりよくするためには、バスを増やしたり、交通の不便さを解消することが重要になります。



他の人の意見を見てみましょう。



Aさん

このスライドの円グラフは区切り線がないから、どこからどこまでが「交通の不便さ」なのか分かりにくいよね。はっきりさせた方がいいと思う。



Dさん

たしかに。しかも、色分けされてるけど、凡例の文字も小さくて見づらいなあ。もっと目立つようにしてほしいかも。

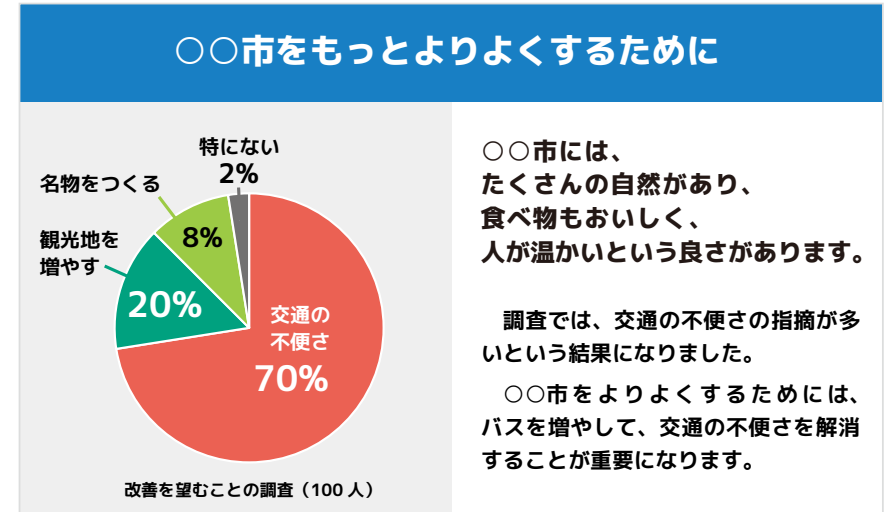
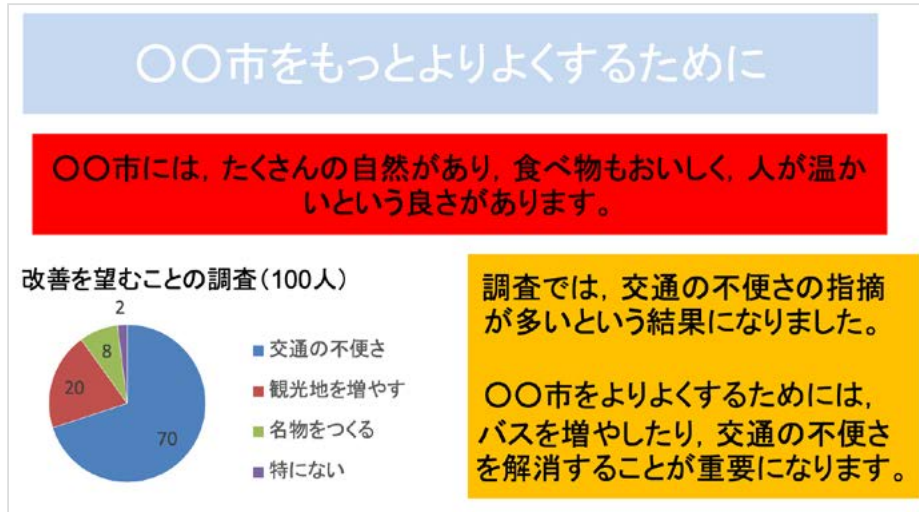


Bさん

あと、グラフと文章のつながりが弱い気がするから、どの色が何を表してるかもグラフの中に直接書いてくれると見やすいね。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。

工夫例



 スキルのポイント

見やすいデザインにするために、「①必要以上に多くの色を使わない」、「②コントラストをつける」の2つを意識してみましょう。

①たくさんの色を使いすぎるとどこに着目してよいのかわかりにくくなります。2~3色程度に抑えるようにしましょう。

②コントラストとは「明暗の差」ですが、薄い背景に白い文字よりも濃い背景に白い文字の方が見やすくなります。



タイトルを考えよう

自主学習用			
年	組	番	名前

地域のケーキ屋さんについて調べたことをスライドにまとめ、地域の人向けに発表することになりました。スライドの構成を検討したところ、以下のような表になりました。

ページ	各スライドのタイトル	各スライドの内容
1	ケーキ屋さんの名前 / 取材した人	ケーキ工房 / 徳川太郎さん
2	ケーキ屋さんの場所	〇〇駅の近く
3	ケーキの特徴	地元の有機農法のフルーツを使用、甘さ控えめなクリーム
4	一番売れているケーキ	イチゴのショートケーキ「天使のおくりもの」(1日100個売れる)
5	ケーキ屋さん開店のきっかけ	もともと徳川さんがイチゴ農家で、奥さんがパティシエだった
6	ケーキ屋さんの願い	地元のフルーツを知ってほしい、子どもを笑顔にしたい
7	エピソード	12月にたくさんケーキをつくって腕をケガしたことがある

このスライドを使って発表する場合の発表のタイトルを考えてください。

発表タイトル



→ やってみよう

他の人の意見を見てみましょう。



Aさん

『ケーキ屋さんの紹介』みたいな普通のタイトルより、見る人が『えっ?』って思うタイトルにしたほうがいいよね。



Cさん

うん、たとえば“1日100個売れるケーキって?”とか。“なぜ農家がケーキ屋を?”とか、ちょっと驚きがあると気になるかも。

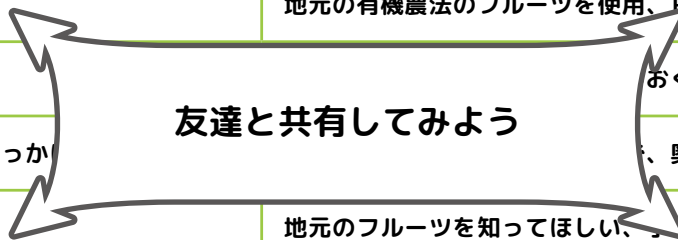


Bさん

『子どもを笑顔にしたいケーキ屋さんのひみつ』とかもいいかも。開店のきっかけとか、ケガのエピソードとか、ストーリー性があると興味を持たれそう!

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。

ページ	各スライドのタイトル	各スライドの内容
1	ケーキ屋さんの名前 / 取材した人	ケーキ工房 / 徳川太郎さん
2	ケーキ屋さんの場所	〇〇駅の近く
3	ケーキの特徴	地元の有機農法のフルーツを使用、甘さ控えめなクリーム
4	一番売れているケーキ	「おくりもの」(1日100個売れる)
5	ケーキ屋さん開店のきっかけ	奥さんがパティシエだった
6	ケーキ屋さんの願い	地元のフルーツを知ってほしい、子どもを笑顔にしたい
7	エピソード	12月にたくさんケーキをつくって腕をケガしたことがある



発表タイトル

★ スキルのポイント

スライドでまとめた内容を、どのようなタイトルで伝えるかは、とても重要な問題です。

例えば、「ケーキ工房について」というタイトルで、地域の方は関心を持って聞いてくれるでしょうか。

「おや、なんだろう?」「どういうことだろう?」といったタイトルの方が、関心を持ってくれるかもしれません。「はじめてケーキ工房を知る人は、どんなことに驚くだろうか?」といった視点で考えると、「1日100個売れる」ことや開店のきっかけ、思い、具体的なエピソードなどをタイトルに入れるとよいでしょう。

→ やってみよう

著作物とは、「思想又は感情を創作的に表現したもので、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」となりますが、こうした著作物を違法にコピーすると、誰が困るでしょうか。

マンガ家の作品を画像共有サイトへ勝手にアップロードした場合、どのような人が困るのか考えてみましょう。

マンガを勝手にアップロードした

▼ 誰が困る？

▼ 誰が困る？

▼ 誰が困る？

▼ 誰が困る？



→ やってみよう
他の人の意見を見てみましょう。



Cさん

まず困るのは、やっぱりマンガを描いた人だね。売れなくなったら収入が減るし。



Dさん

うん、でもそれだけじゃなくて、本を作る人たちとか、お店で売ってる人も影響受けるよね。



Bさん

それに続きが出なくなったら、ファンの私たちも困るよ…。ちゃんと守らないと、自分にも返ってくるんだなって思った。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。

マンガを勝手にアップロードした

▼ 誰が困る？

▼ 誰が困る？

友達と共有してみよう

▼ 誰が困る？

★ スキルのポイント

「マンガを勝手にアップロードしたら、誰が困るか？」と聞かれると、まず思いつくのは、マンガ家本人や出版社の人たちでしょう。もちろん、本来得ることができるはずのマンガの購入代金をもらえないと考えれば、マンガ家本人や出版社の人たちは困ってしまいますが、それだけではありません。マンガの出版に関わる全ての人たち、例えば、印刷会社や広告代理店、書店なども困ります。

さらに、マンガ家や出版社の人たちが困るところで、そのマンガの続きが描けなくなるとすると、一番困るのは誰でしょうか？

著作権により新しいアイデアや作品をつくることを尊重することは、私たちにとっても重要なことなのです。



しんがい
著作権を侵害してしまう時とは、どのようなときでしょうか。
しんがい
著作権を侵害してしまう場面と理由を考えてみましょう。

どのような？

- 1** ✓
好きな
- 2** ✓
人気の
- 3** ✓
ネットで見つけた
- 4** ✓
推している

何を？

- A** ✓
アニメ・マンガを
- B** ✓
音楽を
- C** ✓
イラストを
- D** ✓
本を

なぜ？

- ア** ✓
みんなにも知ってほしくてSNSで公開してしまう
- イ** ✓
出典を示さずに自分のものとして発表スライドに使ってしまう
- ウ** ✓
再生数を伸ばしたくて動画共有サイトで公開してしまう
- エ** ✓
勝手にSNSのアイコンにしてしまう
- オ** ✓
買うお金がもったいないから写真を撮ってしまう
- カ** ✓
友達も欲しそうだからコピーしてあげてしまう
- キ** ✓
お金がないから違法サイトからダウンロードしてしまう
- ク** ✓
勝手にグッズにして売ってしまう

他の人の意見を見てください。



Aさん

この前、好きなキャラクターの画像をアイコンに使ってたんだけど、それも著作権に引っかかるって知ってビックリした…。



Dさん

うん、“これぐらいなら大丈夫”って思ってやっちゃうこと、あるよね。でも、作った人からしたら勝手に使われるのってつらいかも。



Cさん

たしかに。新しい作品が出なくなったら、自分たちが一番困るよね。ちょっと気をつけて使おうって思った！

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。

解答例

どのような？

4

推している

何を？

A

アニメ・マンガを

なぜ？

E

勝手に SNS の
アイコンにしてしまう

 スキルのポイント

どういう場面で、私たちは著作権を侵害^{しんがい}してしまうのでしょうか。

「これぐらいなら大丈夫だろう」、「お金がもったいないから」と考えてしまう時は、ぜひそのコンテンツを作った人や広めた人のことを考えてみましょう。

新しい音楽やマンガなどをつくるのがどれだけ大変で、どれだけ大切なことなのか、「もし、新しいコンテンツが創作されなくなったら誰^{だれ}が困ってしまうのか」をぜひ考えてみてください。

知的財産権には、主に文化的なものを保護する「著作権」と産業的なものを保護する「産業財産権」があります。次の内容を、「著作権」で保護するものと「産業財産権」で保護するものに分けてみましょう。

→ やってみよう

- 1**
市販のタブレットのデザイン
- 2**
市販のタブレットの商品名やマーク
- 3**
個人が考えた新しいイラストのアイデア
- 4**
個人が撮った写真
- 5**
市販のタブレットを高性能化するためのアイデア

著作権	産業財産権	どちらにも当てはまらない



正解

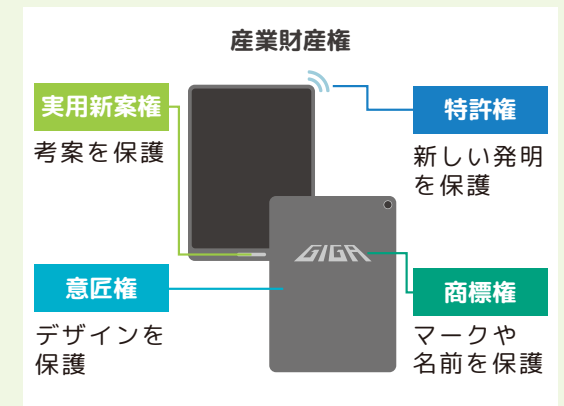
著作権	産業財産権	どちらにも当てはまらない
<p>4</p> <p>個人が撮った写真</p>	<p>1</p> <p>市販のタブレットのデザイン</p> <p>2</p> <p>市販のタブレットの商品名やマーク</p> <p>5</p> <p>市販のタブレットを高性能化するためのアイデア</p>	<p>3</p> <p>個人が考えた新しいイラストのアイデア</p>

☆ スキルのポイント

知的財産権には、主に文化的なものの保護する「著作権」と産業的なものを保護する「産業財産権」があります。

産業財産権には、特許権（新しい発明を保護）、実用新案権（考案を保護）、意匠権（デザインを保護）、商標権（マークや名前を保護）があります。著作権では権利を得る手続きが必要ありませんが、産業財産権は登録しなければ権利が発生しません。また、著作権ではアイデアは保護されませんが、産業財産権ではアイデアも保護されます。

こうした違いを意識しながら、自分の知的財産をどのように守るかを考えてみましょう。



著作権と産業財産権の申請方法と保護期間について調べてみましょう。

Empty box for notes or search results.

他の人の意見を見てみましょう。



Cさん

著作権は、作品を作っただけで自動的に守られるんだって。申請しなくていいんだね。



Bさん

でも産業財産権は、特許庁に申請して登録しないと保護されないらしいよ。手続きが必要なんだって。



Dさん

しかも保護期間も違うよ。著作権は死後70年だけど、特許権は20年くらいなんだってさ。

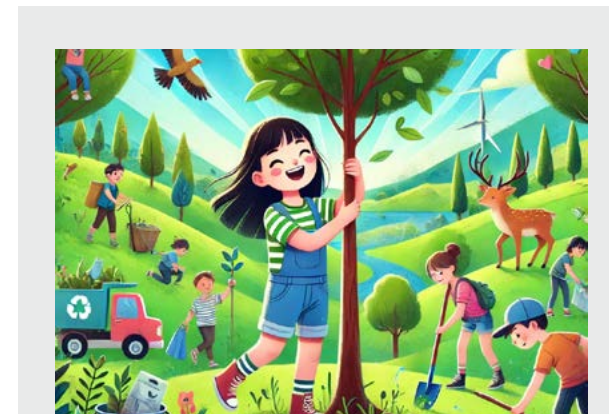
あなたは、^{かんきょう}環境のことを考えてもらうポスターを作成する際、^{いっしょ}保護者と一緒に画像を生成してくれるAIを使って、イラストを作ってみることにしました。

すると、イメージにぴったり合うイラストが生成されたので、そのまま使ってポスターを完成させ、公開することにしました。

こうした画像を生成してくれるAIを使うことで、便利になる一方で、どのようなことが問題となるでしょうか。画像生成AIの仕組みを考えながら、問題点を考えてみましょう。

ヒント

- ・画像生成AIの仕組みを考えてみよう



実際に画像生成AIで作られた画像の例

問題点

他の人の意見を見てください。



Aさん

画像生成AIって便利だけど、もともになったイラストを勝手に学習してることもあるんでしょ？ それって問題じゃない？



Dさん

たしかに。もし自分が描いたイラストを無断で使われたら嫌だよね。ちゃんと許可とってるのか気になるな。



Bさん

それに、誰が作ったのか分からないから、ポスターに使うときに『これ、ほんとに使っていいの？』って不安になるよね。著作権のこと、ちゃんと調べないと。

自分の意見と他の人の意見を比べて、どう思いましたか。





実際に画像生成AIで作られた画像の例

☆ スキルのポイント

画像生成AIは、すぐにオリジナルのイラストを作っているように見えますが、実はこれまでの様々なイラストをあらかじめ学習して、それらを組み合わせてイラストを作成しています。

その学習の過程で、なかには許可なくいろいろな人が描いたイラストを学習している場合もあります。画像生成AIを使う場合は、著作権などの権利をどのように扱っているのかを確認することが大切です。

画像生成AIはとても便利ですが、問題点も考えながら、上手に活用してください。



つくる

まとめ

よき使い手になるために

端末を使って発表スライドなどをつくるときは、著作権のことを考える必要があります。「もし、自分がつくった作品が、誰かに勝手に使われたらどのような気持ちになるだろう」と想像し、他者や自分の権利を尊重しましょう。また、著作権を侵害した場合は、10年以下の懲役または1,000万円以下の罰金（またはその両方）が科されることとなります。もし、誰かがつくったアイデアをマネすることが許される社会だとしたら、誰も新しいアイデアや作品をつくらなくなってしまいます。新しいアイデアや作品をつくることを尊重するために、重い罰則となっているのです。

チェックしてみよう

- 私は、上手に発表スライドをデザインすることができる
- 私は、発表スライドのタイトルを上手につけることができる
- 私は、著作権が何のためにあるのかを説明することができる
- 私は、著作権を侵害しないために、どのようなことに気をつければよいか分かる
- 私は、知的財産権の「著作権」と「産業財産権」について説明することができる
- 私は、画像生成AIを使う時に、どのようなことに気をつければよいか分かる



現在、端末を操作する際に、様々な入力方法が検討されています。

もっとも一般的なのは、キーボードやタッチペンなどでの入力ですが、最近では音声やジェスチャーなどでも入力ができるようになりました。

調べてみよう

音声やジェスチャーを活用するサービスにはどのようなものがあるだろうか？

話し合ってみよう

音声操作やジェスチャー操作ができるようになると、どのような社会問題を解決できる可能性があるだろうか？